



湖南市にある三雲城（県指定史跡）は「六角氏の逃げ城」として知られます。近江守護六角氏は攻め込まれると存外あっさり、本拠観音寺城（近江八幡市・東近江市）を退去し、しばしば重臣三雲氏がよる三雲城に逃げ込みました。

三雲城が最初に史料にあらわれるのは1487（長享元）年のことです。応仁・文明の乱後、戦国の混乱が深まるなかで、六角高頼が公家や寺社などの所領を押領したことから、將軍足利義尚は幕府の権威回復を



■ 猿飛佐助ゆかり 三雲城（湖南市）

枡形虎口や八丈岩に注目



①三雲城跡の枡形虎口
②合格祈願のパワースポットの八丈岩＝いずれも湖南市吉永で

もくろんで約2万もの軍勢を率い、六角氏を討伐しようとした近江へ出陣しました（長享・延徳の乱）。これを知った高頼は観音寺城を退去して甲賀郡へ走りまわった。六角氏は「逃げるは恥だが戦に勝つ」という戦法をもって三雲城や石部城（湖南市）を拠点とし、ゲリラ戦を展開しました。義尚はこの抵抗を受けて近江での長期在陣を余儀なくされ、1年5カ月もの間、鉤（かぎ）を流れる野洲川と対岸の竜王方面の眺めを楽しむこと

とができます。当時は東海道や野洲川を行き交う人々の様子をうかがう最適な場所だったことが分かります。城の中心は標高334mの山頂にあり、大きな石を使った枡形虎口に入ると、御殿が建ちそろう平らな面が造成され、石組みの深い井戸も見られます。一部には大きな石で積まれた高い石垣が築かれており、観音寺城と共通する特徴として注目されます。

三雲城の中枢を見学した後、細い尾根道を通って北側に進んでみて下さい。そこには六角氏の家紋「四ツ目結」を刻んだ岩があります。すぐ近くには八丈岩があり、高さ8mを超える巨岩が絶妙なバランス



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

【アクセス情報】三雲城址案内所へはJR三雲駅から徒歩約40分、甲西駅から同約50分。タクシーで10分。車の場合は名神高速道路竜王インターチェンジ（IC）または栗東ICから約10分、栗東湖南ICから約7分。

（県文化財保護課・園田万佑香）